

平成25年度 新人教育年間プログラム

| 項目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | |
|--|----|---|--|--|--|--|------------------------------|-----------------------------------|---------------------|-------------|---|-----------------------|--|
| 基 本 的 職 業 的 姿 と 勢 と し て 態 度 要 な | 目標 | 専門職業人として自覚ができる | 自己の心身の健康を保つ必要性を理解できる | 職業人として倫理に基づいて行動できる | 看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動できる | 医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重した行動ができる | | | | | | | |
| | 内容 | 1. 専門職業人としての使命感構え 2. 職場の規律 3. 守秘義務の遵守 4. 看護師としての接遇、マナー 5. 就業規則の理解 | 1. 自己の健康管理 | 1. 看護師としての責任の理解 2. 患者のプライバシーを守る看護実践 3. 患者中心のサービスであることの認識 | 1. 患者に傾聴・共感し患者を尊重した行動 2. マニュアルの理解とマニュアルに基づいた行動の実践 3. 患者・家族に対して、思いやりと共感を持った態度 | 1. 生命を脅かす危険性のある看護行動(リスクの感性を磨いて) 2. 患者・家族から信頼される適切な接遇 3. 患者の身体・心理・社会的側面からの情報収集・アセスメント・実践 4. 患者・家族に看護実践の説明とその反応を捉える 5. チーム医療の構成員として自己の役割の理解と協働 6. 同僚や他部門との積極的なコミュニケーション 7. 看護行為の振り返りと自己の課題の明確化 8. 学習の効果を看護実践に生かす | | | | | | | |
| 看 護 実 践 に お け る 技 術 的 | 目標 | 患者の看護に必要な判断と基本的な看護技術が提供できる | | | | | | | | | | | |
| | 内容 | 患者の身体状況に応じて、 指導者の監視下で実践できる 【環境調整】 ・病室内・病床の環境整備 【症状・生体機能管理】 ・バイタルサイン・身体計測 ・採尿・尿検査 方法・手順を理解する 【呼吸・循環】 ・酸素吸入 ・吸入療法 ・口腔鼻腔吸引、気管内吸引 ・採痰 【感染防止】 ・スタンダードプリコーションの理解 ・医療廃棄物の取り扱い 【症状・生体機能管理】 ・静脈血採血 【与薬の技術】 ・筋肉内注射、皮下注射、皮内注射 ・抗生物質の用途の理解と副作用の観察 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの理解と準備 【救急救命処置】 ・救急カートの取り扱い | 患者の身体状況に応じて、 一人で実践できる 【呼吸・循環】 ・酸素吸入・吸入療法 【排泄】 ・オムツ交換 ・尿器介助 【清潔・衣生活】 ・陰部洗浄 ・清拭 指導を受けながら実践できる 【食事援助】 ・臥床患者の食事介助 【活動・休息】 ・移動、移送 【排泄】 ・浣腸、導尿 【清潔・衣生活】 ・身体の清潔(清拭) ・口腔ケア 【呼吸・循環】 ・口腔鼻腔吸引 【与薬の技術】 ・経口 ・経管栄養チューブからの与薬 ・坐薬 ・貼 | 患者の身体状況に応じて、 一人で実践できる 【投薬の技術】 ・経口与薬、外用薬 ・座薬 【排泄】 ・座薬 【身体の清潔】 ・清拭・部分浴・陰部洗浄 ・口腔ケア 指導を受けながら実践できる 【食事援助】 ・経管栄養、嚥下障害のある患者の食事介助 【排泄】 ・適便 ・膀胱内留置カテーテル ・導尿 【呼吸・循環】 ・気管内吸引 ・採痰 指導を受けながら実践できる 【症状・生体機能管理】 ・静脈血採血 ・血糖測定 ・静脈血採血の準備、介助 【与薬の技術】 ・筋肉内注射、皮下注射、皮内注射 ・点滴静脈内注射 ・抗生物質の用途の理解と副作用の観察 | 患者の身体状況に応じて、 一人で実践できる 【食事援助】 ・臥床患者の食事介助・経管栄養 ・嚥下障害のある患者の食事介助 【活動・休息】 ・移動、移送 【排泄】 ・浣腸、導尿、適便、膀胱内留置カテーテル 【呼吸・循環】 ・気管内吸引 【与薬の技術】 ・点滴静脈内注射 方法・手順を理解する 【呼吸・循環】 ・人工呼吸器装着中の患者の観察 ・心電図モニター ・12誘導心電図の装着 ・排痰ドレナージ 【与薬の技術】 ・輸血、血液製剤の取り扱い ・麻薬の取り扱い ・中心静脈内注射の理解 | 患者の身体状況に応じて、 一人で実践できる 【呼吸・循環】 ・人工呼吸器装着中の患者の管理 【与薬の技術】 ・輸血、血液製剤の取り扱いと管理 ・麻薬の取り扱いと管理 ・輸液ポンプ、シリンジポンプの準備と管理 ・中心静脈内注射の準備、介助、管理 【入退院の取り扱い】 ・入院患者の受け入れ ・患者の退院指導 【逝去時の看護】 ・死後の処置 ・患者、家族への配慮 【救命救急処置】 ・アンビューバックの適切な使用 ・気管内挿管の準備と介助 ・閉鎖式心マッサージ | | | | | | | |
| | | 指導の下に、基本的な医療安全技術について考えることができる | | | 指導の下に、患者の看護に必要な判断ができる | | | 患者の看護に必要な判断と安全・安楽を考慮した看護技術の提供ができる | | | 根拠に基づいて、患者の看護に必要な判断と安全・安楽を考慮した看護技術の提供ができる | | |
| | | 医療安全管理マニュアル、感染対策防止マニュアル、人工呼吸器管理マニュアル、針刺し事故マニュアル、看護記録マニュアル等を読み、理解を深める | | | | | | | | | | | |
| 管 看 理 護 的 実 ・ 践 教 に 育 お け る 側 面 | 目標 | 個人情報保護法を理解し、医療情報や記録物を適切に取り扱うことができる | 看護単位の特殊性と業務内容が理解できる | 医療安全体制管理について理解できる | 看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成できる 規定に沿って医療機器、看護物品を取り扱うことができる | | | コスト意識を持って業務ができる | | | | | |
| | 内容 | 1. 医療情報に関する規定の理解 2. 安全管理の重要性の理解 | 1. 看護業務基準の理解 2. 看護基準・手順に沿った援助 3. 業務上の報連相(報告・連絡・相談) | 1. 医療安全体制管理に基づいての確認行動 2. ヒアリハット事例の報告方法←活用方法 | 1. 看護記録マニュアルに沿った記録ができる 2. 担当患者のスケジュールが分り、優先度の理解ができる 3. 割り当てられた業務を手順に沿って実施できる 4. 投薬の請求・受領と保管場所が分る 5. 安全な医療機器・看護物品の取り扱いができる | 1. 使用する物品の使用目的と必要容量の理解と種類の選択ができる 2. 処置薬・物品・経腸栄養剤オーダーリング入力 3. 病院内の消防設備と避難ルートの把握と説明ができる | | | | | | | |
| 集 合 教 育 | 内容 | ・新採用者オリエンテーション ・病棟オリエンテーション ・接遇 | ・感染 ・看護記録 ・基本的な薬剤の知識と管理 ・接遇 | ・医療安全 ・医療機器の安全管理 ・看取りの看護 ・接遇 | ・自己の振り返り ・フィジカルアセスメント ・褥瘡 ・接遇 | ・急変時の対応 ・医療機器の取り扱い ・接遇 | ・接遇 ・個人情報 ・防災講習 ・接遇 | ・自己の振り返り ・褥瘡 ・透析看護 | ・褥瘡 ・喫煙 ・防火訓練 | ・リスク ・感染 | ・感染 ・医療機器の安全 | 看護実践を振り返り、課題の達成度を把握する | |